

平成 29 年度 法学既修者コース B 日程 民事系科目出題意図

<出題意図>

〔問題 1〕

【出題意図】

中間省略登記について問う問題である。今日の不動産登記法の下では、以前のように問題化することは少ないと言われているが、今日でもなお物権法において押さえておくべき論点である。

〔問題 2〕

【出題意図】

民法423条に基づく債権者代位権の効果に関する制度趣旨・議論を説明させることを通じて、債権の効力についての基本的理解を問う問題である。

〔問題 3〕

【出題意図】

遺産中に預貯金債権等の可分債権がある場合において、可分債権は遺産分割の対象に含まれるのか、それとも相続の開始によって法定相続分に応じて分割承継され、各相続人は原則として遺産分割前でも分割された当該債権を行使することができるのかにつき、判例・学説の立場を理解しているかを問う問題である。

さらに、現在法制審議会民法（相続関係）部会によって進められている相続法改正論議のもとでの遺産中の可分債権の扱いに関する議論についても知識を有しているかを確認することをねらいとする。

〔問題 4〕

【出題意図】

新株発行における既存株主の利益状況が、新株発行の方法によってどのように変化するのか、という点についての理解を問うものである。

〔問題 5〕

【出題意図】

本問は「訴えの取下げ」と「請求の放棄」という類似するが異なる概念について正確に理解しているかどうかを問うものである。両者は訴訟の終了の場面における処分権主義のあらわれという点において共通するが、その効果は異なり、したがって要件（例えば相手方の同意の要否）も異なってくることを関連づけて説明することが望まれる。